仏通寺産の蜘蛛三種及び一新種

大　井　良　次

（大阪市立大学家政学部生物研究室）

On Some Spiders (including a new species) from Buttuji

Ryōji Oi

標記の仏通寺は広島県豊田郡高坂村に在る臨済宗仏通寺派の本山である．その環境は大変美しく，変化に富み，且つ余り人為が加わつていないので生物の生育状態を調査するには好適な場所柄である．昭和29年8月19日及び同30年8月15日の2回に亘り採集調査をする機会を得た．その採集品中には比較的珍らしいと思われるものや，新らしい種類が含まれていたので，それ等を再調査するため同30年10月24日博多に於ける動物学会の帰途寸時を割いて立ち寄つて見た．然し後述のように十分にその意図を果すことが出来なかつたのは残念であつた．今後更に調査したいと思うが，とりあえず珍らしいと思われるもの2,3の種について記述することとした．

1. *Segestria komatsuana* Kishida　コマツエンマグモ

小松敏宏氏の記載は極めて簡潔であるが，その図解を参考として筆者の採集品と比較すると全く一致し，同一種であることが確認出来る．同氏の採集個体数は少く特に成雄は一個体のみのようであるが，当仏通寺には多数群棲している．成熟期は秋期で，10月24日の採集の際には両性共十分成熟していた．特にこゝで補足して置きたいことはその巣はすべて両端に開口のあるへ字状の管巣で，砂粒等は交えていない．従つて一見 ***Cybaeus mellotteéi*** ナミハグモ等の巣ではないかと思われる．岩石，墓碑等の凹所或は刻字部に造巣しているものが多い．

2. *Ariadna orientalis* Dön. et Str.　コミヤグモ

この種については Bösenberg 及び Strand による1906年の記載以来その採集記録を余り見ないし，且つその記載は幼生につきなされている為，*A. lateralis* (Karsch) の幼生ではないかと云う疑問が持たれる．30年8月15日の採集品中にも，*A. lateralis* に交つて1個体が含まれていた．やはり未成熟であり，色彩や体形も原記載と同様であつて，多少 *lateralis* と異つた様子が見られる．特に生刺状態は *Orientalis* の原記載と殆んど同様であり，*lateralis* とは明らかに異つている．然しこの生刺状態は同一個体の左右の歩脚に於てさえ多少の相異が見られるのであるから，幼生と成体とでは或る程度の差異があるのではないかとも考えられる．こゝには唯観察した点のみを記して参考に供することゝした．

3. *Theridion ferrum-equinum* Bös. et Str.　オンマヒメグモ
（ヒザブトヒメグモ） (Figs. 1, 2, 3)

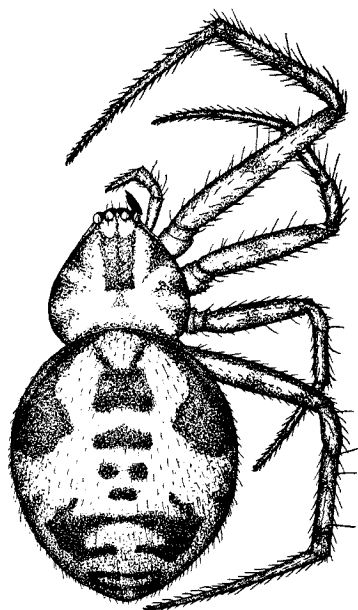



Fig. 1. *Theridion ferrum-equinum* BÖS. et STR. 仏通寺産 (15/VIII '55)

Fig. 3.
1. *Lathys* (*Scotolathys*) *punctosparsus* n. sp. の眼域
2. 同　epigynum
3. 同　右第4脚蹠跗節
4. *Theridion ferrum-equinum* BÖS. et STR. を前方より見る
5. 同　頭胸部側面
6. 同　epigynum

Fig. 2. *Theridion ferrum-equinum* BÖS. et STR. 人吉産 (3/VIII' 53)

採集月日：Aug. 15, 1955, 成雌2（この内の一個体について記述する）亜成雄1，幼2， Oct. 24, 1955, 成雌1, 亜成雄1，幼1．

測定（mm）：体長 2.44　腹部長 1.44　脚長　Ⅰ 4.8 Ⅱ 3.4　Ⅲ 2.6　Ⅳ 4.2

色彩：全体淡黄乃至淡褐黄の地色をなし，これに特有の黒斑がある．頭胸部では頭部後方より中窩に達する黒色縦長の短形及び放射溝に沿うて輪廓の淡い太い黒線とがあり，更に縁辺は細く明瞭な黒線により囲まれる．胸板は淡黒黄色で縁部は黒色となる．腹部背面に Fig. 1 のような特有の黒色対斑並びに横斑があり，図に表われない後腹背面にも数個の横斑がある．側面は前上方より後下方に向つて並行する黒色の不規則に切れた斜条がある．腹面は中域に大形の黒色横斑と，黄色の糸疣を囲む黒色環斑（但し背面では欠けている）とがある．胃域にも褐黒色の生殖器を取り

囲む横に長い黒斑がある．触肢歩脚は全体帯褐黄色をなし，先端に到るに従い濃褐色となる．生時は歩脚の腿・脛・蹠節には各々2個の黒色環斑があり特に下面に於て明瞭であるがアルコール漬では退色して認め難くなる．

形態：頭胸部は比較的小形で全体が略三角形をなし長さ約1.06mm幅は第2第3歩脚間が最も広く約0.84mmである．眼域の後方より中窩迄は略水平でその後方は緩く傾斜する．中窩・放射溝は何れも浅く明瞭を欠く．眼は何れも黒色に縁取られ前中眼のみは黒色であり，且つ前方に著しく突出する共通眼丘上に在る（Fig. 3の5）．前眼列は略直線をなし，額縁と並行し，その距離は前中眼直径の約3倍ある．後眼列も上方より見て殆んど直線をなす．前中眼は最も小形，他は略等大で前中眼の約1.5倍ある．各眼間の距離は前中眼間と前中・前側眼間とは相等しく何れも約前中眼直径，後中眼間は広く略後中眼直径に等しい．後中・後側眼間はそれよりやゝ小である．両側眼は相接す．前後の中眼間は略後中眼直径に等しい．口器はすべて中庸大で普通の形であるが下顎の内縁は白色でこの部に細毛を密生し，下唇もまた前縁が白色である．胸板は楯形後端は円味があり，第4歩脚基部を隔つ．触肢には無歯の爪を具う．歩脚は中庸大で膝・脛節には各々2剛毛がある．3爪で上爪には凡て4歯を具え先端のもの程大である．第4歩脚跗節には数本の櫛毛を装う．腹部は球形で前上方に隆起し，後方に於ても糸疣が最後端よりも前方にある．生殖器部は半円形で且つ隆起著しく開口部のみやゝ凹む．糸疣は前疣最大で円錐形，後疣も長さ略々等しくやゝ細い円筒状をなし，中疣は極めて小形で生時は認め難い．

習性：石下又は崖の凹所等に小形の砂粒を用いた小釣鐘状の巣を吊し，その最頂部の内側に潜む．

備考：この属で釣鐘状の造巣をするものは *T. angulithorax* が知られているが，この種は色彩・構造共に相違している．

T. ferrum-equinum は九州地方では極めて普通に而も多数棲息するが，本州では余り見られない．Bösenberg 及び Strand (1905) の原記載と，上記の記述とを比較して見ると構造は殆んどよく一致しているが，色彩，斑紋の点は著しく相違し，且つ原記の図解に於ける背面並びに生殖器部は全く別種を思わせるものがある．従つて筆者は最初別種であると判断していたが，多くの個体について比較すると色彩斑紋にも自ら共通する点も見られる．原記の生殖器部の図解も観察や描画に表現上の誤差があるのではないかと考えられる．何分にも産地が相当隔つていることであるから色彩・斑紋の変化は有り得ることである．こゝでは一先づ同一種として置くことゝした．Fig. 1 と Fig. 2 とを比較し，且つ Fig. 3 の生殖器部と原記載の馬蹄形をしていると云う図解とを比較対照せられたい．

何れにしても本州では稀薄な存在であると思う．

4. ***Lathys* (*Scotolathys*) *punctosparsus* sp. nov.**

ナシジカレハグモ (Fig. 3, 4)

採集月日：Aug. 15, 1955　亜成雄4，亜成雌1，幼生3．

Oct. 24, 1955　成雌2（この内1を Holotype とし，他を paratype とする）

測定（単位 mm）：体長 2.3　腹部長 1.35　脚長　I 3.9　II 3.6　III 3.1　IV 3.9

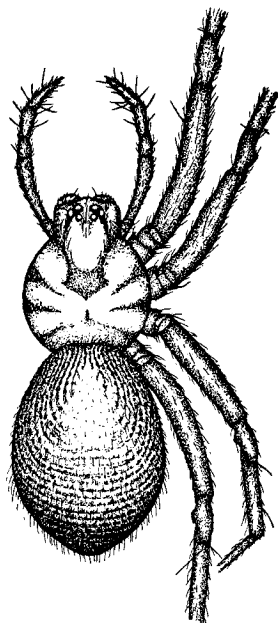
色彩：全体の地色は淡黄土色で，生体では後頭部より中窩前に五角形の淡黒斑と放射溝に沿う幅広き淡黒線とが見られるがアルコール漬ではやゝ退色する．胸甲の縁辺は黒色細線により縁取られる．胸板は地色をなし斑紋はない．上顎は暗色下顎の内縁及び下唇の前縁は何れも淡色である．腹部背面は Fig. 4 に示す如く黄土色地に黒色の斑点が心臓部を中心に抛物線をなして排列し，一見したところ黒色地に黄土色の斑点が砂子状に散布する如くである．心臓部にはこの黒色斑点は認め難く，背面後方に到るに従い濃密となる．側面は背面の斑紋が続き腹面に到るに従い次第に粗く且つ淡色となる．下面は斑紋なく唯中域の両側がやゝ暗色である．生殖器部は褐色で，触肢歩脚は共に暗黄土色で斑紋は認められない．

形態：胸甲は略楕円形をなし頭部は幅広く且つ可成り前方に突出し，且つ穹窿状をなして眼域後方が最も高い．中窩は細い縦線をなし暗色である．放射溝は浅く波状をなす．

眼：6個，すべて白色で前中眼を欠く．前後の側眼は略同大で相接し黒色丘上に在り，前側眼間は略その直径に等しい．後中眼は小形で側眼の½大である．後眼列は前曲し後中側眼間は後中眼直径をなし，後中眼間は前側眼間の距離と殆んど相等しい．従つて左右3眼宛群をなして相対す（Fig. 3の1）．額縁は上方より見ればやゝ凸出するも前方より見ればやゝ凹入し，その広さは側眼直径の 1.5―2.0 倍である．

Fig. 4.　*Lathys* (*Scotolathys*) *punctosparsus* n. sp. ♀

口器：上顎は中庸大で垂直をなし，歯は微小で認め難いが前牙堤に3歯以上，後牙堤には明かに5歯を具える．前堤の縁部は長毛列生し，且つ上顎の前面にも長毛を散生する．下顎は多少洋梨状をなし前後縁には褐色の細線があり，内縁部は白色で多数の毛を密生し，外側縁にも長毛を生ず．下唇はやゝ幅広い梯形をなし，長さは下顎の約半である．前縁には細毛を生じ，且つその両側には一対の剛毛があり，特徴的である．**胸板**は心形をなし，幅より長さがやゝ長く，後方は少しく尖つて第四歩脚基節を隔つ．**觸肢**には微少の彎曲した爪があるが認め難い．**歩脚**は比較的長大である．その剛刺の排列は下表の通りである．第四歩脚蹠節の櫛毛は基部より略中央迄達し十数本から成る．跗節及び蹠節にはTrichobothr-

ium を各１本，脛節には数本が認められる．

	Fem.		Pat.	Tib.	Metatar.
触肢			上面前後各１	両側前後各１対，内側前方１	後方２対，前方若干
I	上面中央１	内側前方１	同上	上面基部１，下面中央１対	下面中央１
II	同上	ナシ	同上	同上　同上	同上
III	ナシ		同上	同上　両側前方1対，下面前方1	同上　外側１
IV	ナシ		同上	同上　同上　同上	同上　同上 (Paratype では２)

腹部は楕円形で灰色毛を被る．篩疣及６絲疣があり中疣は小形で前後疣にかくれ認め難い．生殖器部は半円形でドーム様に凸出している． Fig. 3 の２に示した図はやゝ後方より見たものである．

習性：石下に棲み，巣は不明である．

備考：この属 [*Lathys* (*Scotolathys*)] のものは米国産のものが2種 [*S. pallidus* (Marx), *S. maculatus* (Banks)] 報告されているが何れも小形であり斑紋，生殖器部及び櫛毛の状態等で相違する．唯本種の雄の成体が得られなかつた為その palp の比較が出来ないのは遺憾である．

Lathys (*Scotolathys*) *punctosparsus* sp. nov.

Jap. name: Nashiji kareha-gumo

DATE and LOCALITY:

Oct. 24, 1955　Adult femals 2 (Holotype and paratype)

Aug. 19, 1954　Some unadult males and females.

Buttsu-ji, Takasaka-mura, Toyota-gun, Hiroshima Pref.

MEASUREMENTS:

Total length　2.3mm

Abdomen　1.35mm

DESCRIPTION:

Carapace oval and arched highest behind the ocular area, the head broad and projecting forward, pale yellow in base color with black margin; a large pentagonal blackish mark behind the head, broad lines on the cervical and radial grooves seen in life, but indistinct in alcohol. Longitudinal median furrow very narrow and dark.

Eyes six, lacking anterior median eyes, and arranged in two triads, all pale. Anterior lateral eyes separated from each other by the full diameter, contiguous with posterior lateral eyes of the same size. The row of posterior eyes procurved. Posterior median eyes separated from each other by their diameter and from the posterior lateral eyes by a half of its. *Clypeus* from one and a half to

twice the diameter of lateral eyes in height.

Chelicerae dark colored, of normal snape, moderate size, anterior margin of furrow with 3 or more minute teeth and with a row of long hair; posterior margin with 5 small teeth. *Endites* pear-shaped, with the scopulae on the pale distal margin, and with long hair at the outer margin. *Labium* broad trapezoid shaped, half as long as the length of the endite, with a scopulae, and a pair of long bristles at the white tip of labium.

Sternum pale yellow with no pattern, heart shaped, somewhat longer than the width, separating the 4th coxae with its end.

Palpus with a small claw. *Legs* and palpi dark yellow with no pattern. Legs robust and armed with several bristles. The length of calamistrum half of 4th metatarsus. Each metatarsus and tarsus provided with a trichobothrium and each tibia with several.

Abdomen oval, covered with gray hair, and pale yellow; the dorsum with many procurved slender stripes consisting of small black spots, extend to sides, but not on the cardiac area, and inconspicuous on the venter. Semicircular, protuberant epigynum brown. Cribellum undivided. Spinnerets six, medians very small.

These spiders live under the stone.

REMARKS:

Present species allied to *Scotolathys pallidus* (MARX) and *S. maculatus* (BANKS) described in U. S. A., but it is distiguished from these species by the size of the body, the structure of the epigynum, the length of the calamistrum, and the stripes on the abdomen.

文　献

1. Comstock : —The Spider Book, (1940).
2. Kaston : —Amer. Mus. Nov., No 1292, (1945).
3. Gertsch : —Amer. Mus. Nov., No. 1319, (1946).
4. Kaston : —Spiders of Connecticut, (1948).
5. Bös. u. Str. : —Abhand. Senck. Natur. Ges. XXX, (1906).
6. 小松敏宏：Acta Arachnol. Vol. 4, No. 3, (1939).
7. 斎藤三郎：日本動物分類　真正蜘蛛目 II，(1941).